



小論文

時間 120分

————— 注 意 事 項 —————

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはならない。
2. この問題冊子は18ページである。印刷不鮮明の箇所などがある場合には、監督者に申し出ること。
3. 解答用紙の指定欄に必ず受験番号を記入すること。
4. 解答はすべて別紙の解答用紙に横書きで記入すること。
5. 解答用紙の評点欄には何も記入しないこと。
6. 解答用紙は持ち帰らないこと。

<資料A>と<資料B>を読んで、下記の設問に答えなさい。

<資料A>田中輝美「地方季評 若者の旅立ちの季節 気になる大人の押しつけ」
(朝日新聞, 2022年3月3日)

<資料B>「帰れる場所をつくる 本宮理恵」(田中輝美・法政大学社会学部メディア社会学科藤代裕之研究室『地域ではたらく「風の人」という新しい選択』, ハーベスト出版, 2015年)

(1) <資料A>下線部①の「二つの『押しつけ』」とはどのようなことか, 説明しなさい。

(1行20字詰め, 10行以内)

(2) <資料B>下線部①について, 本宮さんのどのような「悔しさ, 葛藤, 経験」が, 「帰ってこれる島根をつくる」という言葉につながったのか。大学時代と島根にUターンしたあとの2つの時期について, 彼女の「悔しさ, 葛藤, 経験」に触れながら説明しなさい。

(1行20字詰め, 25行以内)

(3) <資料A>下線部②の「『帰ってきたい/こられる』場所」, <資料B>下線部①の「帰ってこれる島根」とはどのような地域か, 2つの資料で示された事例や見解をふまえて, あなたの考えを論じなさい。

(1行20字詰め, 25行以内)

(注意)

解答にあたっては, 解答用紙の1マスに1字を使い, 句読点, 引用符, 括弧などはいずれも1字として扱うこと。ただし, 算用数字およびアルファベットは1マス2字とする。書き出しおよび行を改めたときには, 1マス空けること。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題からお見せすることができませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題からお見せすることができませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題からお見せすることができませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題からお見せすることができませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題からお見せすることができませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題からお見せすることができませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題からお見せすることができませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題からお見せすることができませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題からお見せすることができませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題からお見せすることができませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題からお見せすることができませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題からお見せすることができませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題からお見せすることができませんのでご了承ください。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題からお見せすることができませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題からお見せすることができませんのでご了承ください。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題からお見せすることができませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題からお見せすることができませんのでご了承ください。

令和5年度入学試験 小論文「出題意図」

(入試情報公開用)

行政政策学類 一般選抜 後期日程

本試験は、田中輝美「地方季評 若者の旅立ちの季節 気になる大人の押しつけ」(朝日新聞, 2022年3月3日)と、田中輝美・法政大学社会学部メディア社会学科藤代裕之研究室(著)「帰れる場所をつくる 本宮理恵」(『地域ではたらく「風の人」という新しい選択』, ハーベスト出版, 2015年)の2つの資料を用いて、受験者の読解力、要約力に加え、自らの体験や考えを資料と関連付けながら的確に論じる力を問うものである。

本学類において「21世紀の地域社会が直面している諸課題」に取り組むには、論説文はもちろんのこと、公文書や歴史的資料、地域で活躍する人々のインタビューや対談、自分語りなど幅広い文章を読み、地域社会の課題を重層的に理解したうえで、真に有効な対策を組み立てていくことが求められる。そのため本試験では、現代の若者の「移動」に焦点をあて、地域づくりのあるべき方向性を示した大学研究者の論説である<資料A>と、大学進学で地元島根を離れ、さまざまな経験を経て再び島根に戻った若者の葛藤や経験を、現役大学生が聞き書きした<資料B>という異なった特徴を持つ2つの文章を資料とした。

設問(1)は、<資料A>にもとづき、一人ひとりの若者にとっての人生の選択に際し、その意に反して、地元を押しとどめよう、あるいはそれとは逆に都会での就職を進めようとする「大人の押しつけ」について、本文に沿って説明させるもので、受験生の読解力と要約力をみるものである。

設問(2)は、<資料B>にもとづき、大学進学を機に島根を出て、その後島根に戻って活躍する本宮さんの経験と葛藤を跡付けることで、どのような経験が、彼女の核となる一つの言葉「帰ってこれる島根をつくろう」へとつながったのかを読み解かせるもので、受験生の読解力と要約力、文章構成力を見るものである。

設問(3)は、<資料A>と<資料B>それぞれのキーワードとなっている「帰ってきたい/こられる」地域、「帰ってこれる」地域の適切な理解を踏まえ、受験者自らが「帰ってきたくなる地域」とはどのような地域だと考えるかを論述させ、その問題関心や論

理的思考力、文章構成力を見るものである。